

ジュニア部門 〈母への思いに関する作文〉

小学生部門 優秀賞

いつも、ありがとうお母さん

白山市立蕪城小学校

宮^{みや} 鍋^{なべ} 華^は 奈^なさん

〔応募動機及びコメント〕

「まさかのゆうしゅうしよう!?!」

わたしは、「お母さんのことを書いた作文で、ゆうしゅうしようとつたよ。」と、お母さんから聞いて、「ゆめかな」と思いました。でもゆめじゃないことに目が丸くなりました。わたしの作文がえらばれて、うれしくて頭の中がキラキラとなりました。

わたしは、作文を書くのが好きだけど、これからも自分の気持ちをわかりやすく表げんしていきたいです。

「わたしのお母さんは、たくさんおこる時があります。でも、おこっているからこそ、わたしの事が大好きだと思えます。」

ある日、お友だちとあそんでいた時、楽しくあそんでいました。だけど、きゆうに、いじめられてしまいました。五人で一りん車であそんでいたときに、なかまはずれにされてしまいました。つらくてつらくて、なみだをこらえながら家に帰って、いじめられた事をお母さんに話しました。そしたら、さいしよはこわい顔になったけど、すぐやさしい顔にもどって、

「かわいそうだね、華奈。でも、だいじょうぶ。いつでもママは、華奈のそばにいるよ。」

と、だいてくれました。その時のお母さんは、あつたかかったです。いやな気もちがとんでいった気分になりました。その時、わたしは、

「お母さんありがとう。そして、これからもよろしくね。」

という気もちに、はじめてなりました。その日からお母さんの事が大好きになりました。お母さんは、

「ママ、華奈の事大好き。」

と、言ってくれました。とてもうれしかったです。わたしは、本当にしあわせだとかんじました。

でも、わたしは、ねる前に、またなかまはずれになるかもしれないと思ってねむれなくなりました。お父さんの帰ってくる時間は、午後十一時ぐらいに帰ってくるから、どうしようと思えました。だって、朝までおきているかと思ったからです。でも、この日は、だいじょうぶでした。

次の日の夜も、やっぱりねむれませんでした。その次の日は、なかまはずれにされるゆめまで見てしまいました。この自分がいやになりました。そして、そのゆめの事をお母さんに言うと、いじめられた時みたいに、やってくれました。わたしは、何でわたしの事をそんなにかまうのかなと思えました。いつもの、倍ぐらいうれしくなりました。わたしが、

お母さんになったら、わたしも、自分の子どもにこんなことやらなきやいけないんだ、とがんばる気もちがでてきました。

その次の日からは、もう、なかまはずれのことなんかわすれて、気にならなくなったからうれしかったです。お母さんがやさしくしてくれたので、そのことで、頭がいっぱいになったからだと思えます。そして、わたしは、

「ママ、ありがとう。」

と言いました。すると、お母さんが、

「どういたしまして。」

と、ニコニコ顔で言ってくれました。

それからわたしは、おてつだいをいっばいしました。せんたくをたたんだり、ごはんをはこんだりしました。お母さんは、

「さいきん、お手つだいはっかりするようになったじ。」

と、言ってくれました。わたしは、はずかしくて何も答えることができませんでした。でも、心の中では、

「いい言葉言ってくれて、ありがとう。」

と、思っていました。

わたしは、お母さんがいてくれて、うれしいです。これからも、かならずつと、そばにいてください。何かまたあつたらたすけてください。わたしは、お母さんがつかれたとき、お手つだいをたくさんするように、

がんばります。